

拝啓 今年も早や4月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、桜が散り、はなみずきが優雅な花を咲かせています。新緑も美しい頃となりました。

今回から、新渡戸稲造先生の『人生雑感』から、引用いたします。今回は、「宗教とは何ぞや」という講演録から引用いたします。

(10) のところに次のようにあります。

「宗教とは何ぞやと問えば、私の答えは神に接して力を得、これを消化し同化して、現す力であると言わねばならぬ。宗教の奥義は解きがたく、また考え難い。学説や理論はこのことに就いて何の用もなさぬ。ただ朝夕の祈祷において、神に近づき、神に交わり、神の力を心に実験して、これを身に表わすようにすることが肝要の事である。宗教を研究するは実行においてするのほかはない。」

新渡戸先生は、クエーカーの信者でありましたが、このように実行を大変重んじられた方であります。宗教は生きる力であるという宗教観は、新渡戸先生の外にも、内村先生、小西先生、石館先生、南原先生、高木八尺先生、その他多くの先生に共通する考え方であると思います。新渡戸先生は、特にそのことを強調されていると思います。また、内村鑑三先生が無教会信仰をお建てになった背景には、私はクエーカーの影響がかなりあると思っています。

3月23日は、本誌読者の佐藤昭夫さんと最近良さを再発見してよく行く入笠山(1955m)登山に出かけました。この日もよく晴れて、八ヶ岳、中央アルプス、南アルプスの北部などが良く見え、楽しい登山でした。

4月8日(土)早稲田教会で岩波哲夫先生のお別れの会があり出席した際、本誌の読者である藤恩峰先生にお目にかかり、式のあと昼食をご一緒にしながらいろいろなお話をしましたが、思いがけない豊かな時間をいただきました。

4月15-16日は大学時代の山の会の旅行会で、15日は守屋山(1650m)に登り、諏訪湖の旅館に一泊し、16日は、茅野を経てバスで高遠の桜見物に行きました。15日は軽い雨でしたが、16日は、晴れた温かい一日となり、良い花見ができました。山の会の家族を含めた1泊旅行は、私が万年幹事で、40年以上も続いています。私がいろいろなグループのお世話をするのが苦にならないのは、山の会の旅行会の世話役を長年続けたおかげで身につきました。

5月の連休の頃には、新緑が美しくなり、つつじをはじめ、いろいろな花が咲くでしょう。季節の変わり目に当たりますので、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

山口周三

平成29年4月25日

エンカウターの読者各位